

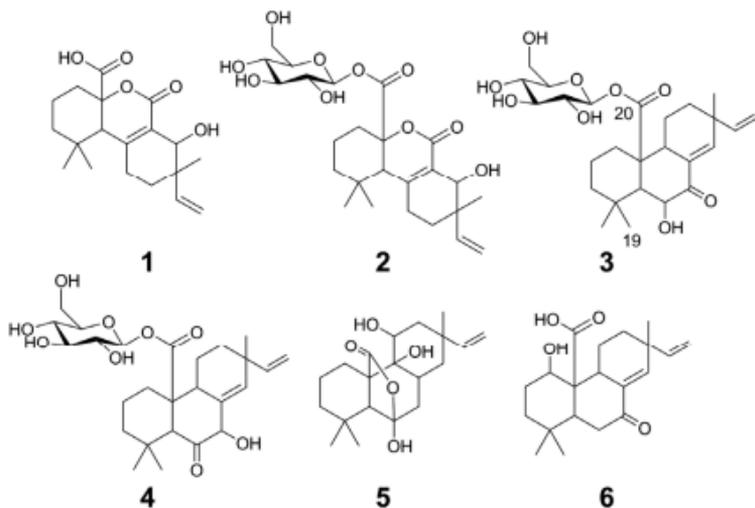
26P-am04S

Aspergillus taichungensis から得られた新規ジテルペンの構造と生物活性について
○瀬邊 桃菜¹, 賀儀山 一平¹, 加藤 光¹, 川畑 哲郎¹, 塚本 佐知子¹ (¹熊本大院薬)

【目的】当研究室が保有する *Aspergillus taichungensis* (IBT19404) は、多様なプレニル化インドールアルカロイドを産生しており、これまでに単離した 20 種のインドールアルカロイドのうち 12 種が新規化合物であった。本研究では、本真菌の代謝産物をさらに精製し、得られた化合物の生物活性を調べた。

【方法・結果】IBT19404 の培養物を各種クロマトグラフィーにより精製し、1-6 の新規ジテルペンを得た。各種 NMR スペクトルを解析した結果、1 は新たな骨格を有するノルジテルペンであり、2 は 1 の配糖体であることがわかった。また、

これまでにジテルペンの 19 位に糖が結合した化合物は報告されていたが、3 と 4 に認められるように 20 位に糖が結合した化合物は初めての報告となる。化合物 2-4 に含まれるグルコースについては、加水分解後、得られた糖を thiocarbamoyl-thiazolidine 誘導体とし、HPLC で分析した結果、全て D 体であることが確認された。¹⁾



1) Tanaka, T., et al., *Chem. Pharm. Bull.*, **2007**, 55, 899-901